

## 教育・研究等業績一覧

履 歴					
フリガナ	イワタニ ユタカ	性 別	男	生 年	1956年
氏 名	岩 谷 豊	身 分	教授	所 属	農学ビジネス学科
学 歴					
年 月	事 項				
1974年3月	北海道美唄工業高等学校建設機械科卒業				
1976年3月	専修大学北海道短期大学土木科卒業				
職 歴					
年 月	事 項				
1976年9月	北海道檜山支庁檜山北部地区農業改良普及所 農業改良普及員				
1983年8月	北海道後志支庁中後志地区農業改良普及所共和駐在所 農業改良普及員				
1990年4月	北海道後志支庁中後志地区農業改良普及所 専門普及員				
1996年4月	北海道石狩支庁石狩北部地区農業改良普及センター浜益駐在所 主査				
2001年4月	北海道石狩支庁石狩北部地区農業改良普及センター 地域第二係長				
2004年4月	北海道上川支庁名寄地区農業改良普及センター 調整係長				
2006年4月	北海道上川支庁上川農業改良普及センター名寄支所 調整係長				
2010年4月	北海道空知総合振興局空知農業改良普及センター 主任普及指導員				
2012年4月	北海道十勝総合振興局十勝農業改良普及センター十勝北部支所 支所長				
2016年4月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科 教授 現在に至る				
教 育 業 績					
1 担当授業科目 (2019年度)					
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考
畑作物生産学	201	前期	木	4	
畑作実習	実習棟	前期	金	4・5	
農業研修	201	前期	月	2	
土壌管理学	201	前期	木	3	
土壌作物診断実習	分析実験室	前期	月	4・5	
1年ゼミナール	203	前期	水	3	
2年ゼミナール	203	前期	水	4	
農業研修	201	後期	木	1	
病害虫管理学	201	後期	木	2	
畑作実習	実習棟	後期	金	3・4	
土壌作物診断実習	分析実験室	後期	月	3・4	
1年ゼミナール	203	後期	水	3	
2年ゼミナール	203	後期	水	4	
卒論演習		通年	随時		
キャリアスキル	202	通年	月	1	

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>目標は次代の農業を担う人材の育成である。学生には常に「将来目標」を確認させ「諸君らは莫大な経費を要してここにいる」ことを認識させるように仕向け、学生の目標達成を最優先にして授業を行った。習得すべき事項を「考える」、「書く」として、①読み書き、②数量的把握と計算、③観察と記録に重点を置き、実験科目を含めた全教科目を通じて繰り返し指導した。また、基礎用語や基礎概念を理解することも重要であると同時に、実際の農業現場で取り組まれている「地域課題解決手法」についても、授業内容に組み込んだ。このことは技術と知識、社会性やチームワーク、実践力の習得に有効な手段と考えた。さらに、農業経営に係る各種制度の内容を授業に取り込むことで、就農後、即実践力となる。</p> <p>各講義科目では、学生の集中力の欠如が見られた。講義科目の必要性、重要性の理解が不十分であったと考える。実習科目においても自ら考え、試行錯誤しながらも課題に取り組もうとした学生は半数に及ばなかった。さらに、その温度差は大きかったものと思える。学生自身の将来目標を、PDC Aなどにより、明確にさせなければならない。学生の目標を達成させるため、講義科目の必要性と重要性を繰り返し示し、興味と関心を高める指導方法の工夫と改善を図る。</p>																				
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>次代を担う農業人として、広い視野を持ち、常に思考すべきことを指導しなければならない。将来の社会生活の中で、授業の内容がどのように役立つかを示し、学生の興味を喚起するように授業を進める。それが農業の使命であることと、地域農業の重要性を説きながら学生の興味を引き出す。学生自身の将来像を常に想像させるよう誘導する。また、直近の話題の中から授業と関連する事項を示すなど、講義が単調にならないように工夫する。学生が興味・関心を高めるような授業努力が必要である。</p>																				
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>教材には最新の統計、国公立の研究機関などから提案された最新の栽培技術、新品種などを盛り込むように努め、そのための情報収集活動を行った。講義資料は卒業後もその分野でのよりどころとして使えるレベルを目指し、それに基づいて授業を行った。作物、農業機械など形有るものの説明には映像資料を用いることが有効である。パワーポイント資料は常に時代にマッチしたものに更新することを心がけた。教材をBlackBoardに掲載し授業時に持参することを指示したが、実行者は3割程度であった。よって、教材並びにパワーポイント資料は印刷し配布した。病害虫管理学では動画を多用した。</p>																				
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>2016年度～</td> <td>フットサル部顧問</td> </tr> <tr> <td>2017年度～</td> <td>卓球部顧問</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>	2016年度～	フットサル部顧問	2017年度～	卓球部顧問																
2016年度～	フットサル部顧問																				
2017年度～	卓球部顧問																				
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<table border="1"> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>																				
<b>研 究 業 績</b>																					
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>有機物施用、土壌改良、土壌微生物に関する研究、畑作に関する研究、技術普及を分野とする。</p>																				
<p>2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む)</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>環境保全型農業を追求するとともに、畑作における施肥改善、安定多収・高品質生産技術、低コスト生産(含む労働時間削減)の可能性を探る。</p>																				

3 研究助成等 (主要 5 件程度)	(1) 文部科学省科学研究費
	(2) 学内
	(3) 学外
4 資格・特許等 (主要 3 件以内)	普及指導員

著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
後志地方における食用ばれいしょ前進栽培マニュアル	共	1995 年 3 月	後志支庁改良普及員畑作部会	基幹作物であるばれいしょの生産出荷の裾野を広げる手法として提示した。
ザ・稲わら適正処理	共	2008 年 3 月	名寄地区営農推進協議会 上川農業改良普及センター名寄支所	稲わらの適正処理方法として秋すき込み、回収稲わらは肉牛飼料として活用できる。
平成 20 年度普及指導員調査研究成果集 稲わらの適正処理と活用方法(継続)	共	2009 年 3 月	上川農業改良普及センター	同上
下川町地域アスパラガスガイドライン～「しもかわアスパラガスプロジェクト」からの提案～	共	2009 年 3 月	しもかわアスパラプロジェクト	プロジェクト活動の集大成。実施すべき技術の再確認と生産振興に向けた役割分担、生産目標の提示。
なよろアスパラガスガイドライン～「名寄市アスパラ増収プロジェクト」からの提案～	共	2009 年 3 月	名寄市アスパラ増収プロジェクト	同上
平成 21 年度普及指導員調査研究成果集 G A P の現状と普及における今後の課題	共	2010 年 3 月	上川農業改良普及センター	農業生産工程管理(Good Agricultural Practice)導入は経営改善につながる。
平成 21 年度普及活動実績(名寄支所版)	共	2010 年 3 月	上川農業改良普及センター名寄支所	地域課題解決に向けた取り組み、成果を集約、他地域への波及に資する。
平成 21 年度家族の樹づくり(家族経営協定)研修会記録集	共	2010 年 3 月	上川農業改良普及センター名寄支所	現在も営農の主体は家族経営である。家族全員が将来営農に係わるため、経営協定を作り出す手法を示した。
空知農業の現状と課題	共	2011 年 3 月	空知農業改良普及センター	空知管内は 10 市 14 町、東西約 70km、南北約 130km に及ぶ広大な内陸地帯農業の課題を整理し普及活動に資した。
十勝北部地域農業	共	2012 年 4 月～ 2015 年 4 月	十勝農業改良普及センター十勝北部支所	十勝北部地域は十勝管内農協取扱高の約四半分を占める。

研究業績(過去 3 力年分)

著作数	論文数	学会等 発表数	その他	国際的活動 の有無	社会的活動の 有無
3				無	有

学 内 運 営 業 績

1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)	2016 年～	拓殖大学北海道短期大学 学生・地域国際交流委員
	2017 年～	拓殖大学北海道短期大学 図書委員

学 外 活 動 業 績

1 本学以外の機関(公的機関・民間団体等)を通じた活動 (主要 10 件程度)	1999 年 7 月～	浜益小劇場(石狩市浜益区)
	2012 年度～2015 年度	JICA 集団研修「農民主導による普及手法」講師(士幌町)
	2016 年 4 月～	北そらち元気塾講師(深川市)
	2016 年 4・11 月～	北海道幌加内高校校内意見発表・実績発表会審査員(幌加内町)
	2017 年 7 月	深川市民講座講師(深川市)
	2017 年 11 月	J A 空知青年部連合会北ブロック青年部大会講師(深川市)
	2018 年 1 月	北海道学校農業クラブ連盟実績発表大会審査員(幌加内町)
	2018 年 11 月～	北海道幌加内高校農業クラブ・実績発表会審査員長(幌加内町)
2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度)	北海道農業普及学会	
	日本育種学会・日本作物学会北海道懇話会	

